

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来を力強く生き抜く、強くて思いやりのある人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

【チーム翔南として教育活動に取り組む】

- 1 確かな学力を携えて、主体的に自己実現と社会に貢献できる人材を育成する。
- 2 グローバルな視点からの情報収集、分析力を高め、計画的なチャレンジ精神を育む。
- 3 思いやりのある心豊かな人材を育成する。
- 4 社会構成員としての自覚（ボランティア精神、美化意識、規範意識、多様性、協働性）を育み未来の創り手となる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 地域に根差した高校として、未知の状況に対応できる、確かな学力の育成
 - (1) 学びを人生や社会生活に活かせるよう、早期にキャリアを展望させ、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代にアクティブに学び続けられる資質・能力の育成をめざし、主体的・対話的・深い学びの視点からの授業改善に取り組む。
 - ア 相互授業公開や研究授業、ICT（タブレット型パソコンを含む）、他校への授業見学、学校教育自己診断、授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成29年度65.2%、平成30年度65.7%、令和元年度65.7%）を毎年引き上げ、令和4年度には70%にする。
 - イ ICTを活用した教育活動の充実
 - ウ 自らの学習状況やキャリア形成を見通しそれぞれがより高い進路実現をめざす。
※【活動記録ノートやキャリアパスポートの活用】
※国公立大学、公務員就職者などは少なくとも一人ずつ、難関大学、看護医療系学校（平成29年度20名、平成30年度35名、令和元年度52名）などの合格者は30名以上輩出する。
 - (2) 「ハートフルはいく専門コース」や地域交流・国際理解教育など本校の特色をさらに充実させる。
 - (3) ウェブサイトや学校通信などの広報活動を充実させ、社会に開かれた学校づくりを更に推進する。
 - (4) インクルーシブ教育システムの更なる推進
校内支援体制の更なる充実、福祉医療関係人材・SC等外部機関との連携をより深め、障がいのある生徒、そうでない生徒、課題のある生徒、そうでない生徒等、すべての生徒の学び・育ちを支援する。
- 2 思いやりの心と健康体力の醸成
 - (1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」が理解できる人権教育を推進する。
※人権尊重の教育を充実させ、対人関係に起因するトラブルの未然防止に繋げる。
 - (2) 健康体力を意識した取り組みなどを推進する。
※健康月間、週間の設置
- 3 心安らげる安全で安心な学校づくり
 - (1) 規範意識をさらに醸成する。
 - ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的な生活習慣を確立する。
※全学年年間遅刻件数（平成29年度8.3回/人・年、平成30年度7.9回/人・年、令和元年度7.7回/人・年 授業遅刻）を毎年徐々に減らし令和4年度には4.3回/人・年にする。
※全学年年間遅刻・退出件数（平成29年度10.4回/人・年、平成30年度9.4回/人・年、令和元年度10.9回/人・年）を毎年減らし令和4年度には5回/人・年とする。
 - イ 広域生徒指導の定着を図る。
 - (2) 美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安全で安心な教育環境を維持する。
 - ア 日々の清掃活動の充実を図るとともに、施設・設備の点検、維持管理、更新などに積極的に取り組む。
※有志による清掃活動参加率（平成29年度14.2%、平成30年度14.3%、令和元年度13.5%）を毎年増やし、令和4年度には在籍生徒数の20%にする。
※学校施設の機能強化（安全・保健衛生・長寿命化・指導上）の為に総点検を実施し課題を抽出する。
 - イ 火災だけでなく、地震や津波、テロなどを想定した防災教育を積極的に行い防災意識の向上を図る。
※予告なしの防災訓練を実施するなど、訓練に工夫をこらす。
※地域との連携を密にし精度の高い防災計画を作成する。
※メール・情報発信ツールへの登録を奨励し安全確認の迅速化を図る。
 - (3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成し、学校生活の充実と学校への帰属意識を高める。
 - ア ボランティア活動を通じて、社会貢献の意識を高める。
※部活動参加率（平成29年度39.3%、平成30年度39%、令和元年度33.8%）を引き上げ、令和4年度には40%とする。
※ボランティア活動や体験活動への参加を奨励する。
 - (4) 学校組織力の向上を図る。
※SP会議（将来構想委員会）、食物アレルギー対応委員会、国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、クラブ活性化チーム、フレッシュパーソンチャーター会議などを充実させる。
- 4 人材の育成と管理
 - (1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、いじめ防止、ピアメディエーション、インクルーシブ教育、教育相談、食物アレルギーなど、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。
 - (2) 働き方改革を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>今年度学校教育自己診断では、長期にわたるコロナ禍により制限せざるを得ない学校生活や行事が影を落としている。特に生徒の「自分のクラスは楽しい」、保護者の「集中して授業に取り組んでいるようだ」など、昨年度より評価が大幅に下がっている。これはコロナ禍の影響であると考察している。</p> <p>逆に昨年度調査より数値が向上したのは、保護者の「学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている(68.8→71.4)」や教職員の「この学校は、文化祭や体育祭などの学校行事が魅力あふれるものになるよう工夫している(64.3→82.1)」や「学校として、部活動の活性化について工夫している(63→85.7)」など、厳しいコロナ禍の中でも工夫をしている項目となっている。</p> <p>○生徒アンケート</p> <p>【1 評価が高かった項目】 肯定的な評価が8割以上を占める項目は、「服装や頭髮の指導がきちんとされている(85.1)」「自分は、校則やマナーを守っている(92.4)」7割以上を占める項目は、「授業に集中して取り組んでいる(78.1)」「クラスは楽しい(73.3)」「学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている(70.2)」となっている。</p> <p>【2 評価が低かった項目】 肯定的意見が半数に満たなかった項目は、「生徒会活動は活発である(43.0)」「部活動は活発である(44.0)」「避難経路を、具体的に教えてもらっている(46.8)」「地域の人や近隣の学校と関わる機会が多い(34.2)」となった。</p> <p>○保護者アンケート</p> <p>【1 評価が高かった項目】 全体として肯定的意見が7割を超える項目は、「服装や頭髮の指導がきちんとされている(84.8)」「校則やマナーを守っている(89.6)」「清掃をきちんとしているようだ(70.2)」の3項目である。</p> <p>【2 評価が低かった項目】 肯定的意見が半数に満たなかった項目は、「生徒会活動は活発である(43.0)」「部活動は活発であると思う(43.5)」「地域の人と係わる機会があるようだ(34.1)」であった。全体として生徒の傾向とほぼ一致しており、家庭で学校の話をしていることがわかる。</p> <p>○教職員アンケート</p> <p>【1 評価が高かった項目】 肯定的な評価が8割以上を占める項目は、「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる(92.9)」「生徒や保護者に進路の情報をよく知らせている(82.1)」「学校として、部活動の活性化について工夫している(85.7)」「生徒指導において、組織的に対応できる体制が整っている(85.7)」「問題行動防止のために、早期指導に学校全体で取り組んでいる(89.3)」「常に自己研鑽し授業をはじめ教育活動全般の向上に努めている(89.3)」「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる(89.3)」となっている。</p> <p>【2 評価が低かった項目】 肯定的意見が半数に満たない項目は、「PTA活動に積極的に参加している(25.0)」「実力診断テストとその結果は、生徒の実力や進路について考えるのに役立つ(40.7)」であった。</p>	<p>第1回【令和2年7月17日(金)13:30~15:00】 ○学校運営協議会から質疑応答及び意見概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業について 現在の実施状況は？(質疑 学識経験者) → 現在実施に向けて、教職員全員に動画作成のトレーニング。また生徒全員と教職員のアカウントを設定済、現段階ではあくまで授業実施の準備中。生徒の通信環境では、全員がインターネットにアクセスできる状況。Wi-Fi環境もほぼ全員の生徒には整っている。ただし、プリンターの普及率は低い。(教頭) ・学校でコロナが発生したらどういった対応になるのか？(質疑 教育従事者) → 一時的に休校、その後再び補充授業せざるを得ない(教務)。 ・どのくらい教員がオンライン授業教材を作成したのか？ → 現段階85%の教員が作成。100%に向けて取り組んでいる(教頭)。 ・生徒たちはこの地域を支える貴重な人材なので、大変な時期のストレスを受け止め、将来の足場を固めるよう、導いてほしい。(要望 地域住民) ・りん翔SORAプロジェクト、今年はどうするのか？(質疑 地域・学識) → 訪問も含め実施予定だが、どのような形になるか検討中。 ・りん翔SORAプロジェクト、代表団が全生徒の1%と少ない。インターネット会議などが発展しているので、これを活用すればどうか。(意見 学識経験者)。 ・オンライン授業については、自分もテレビ会議を活用しているので、協力は可能(意見 地域住民) ※すべての議事、運営協議員によって承認。 <p>第2回【令和2年10月7日(水)14:00~15:00】 ○学校運営協議会から質疑応答及び意見概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートが向上した理由は？(質疑 教育従事者) → ネット環境の改善と、教職員と生徒の強い信頼感が育まれていること等(校長) ・進路決定にあたって、やはり近くの学校や企業を選ぶ人が多いか？(質疑 地域住民) → 近いところを選ぶ傾向がある(進路)。ハートフルほいくコースでは、学校連携で授業をしてくれている学校への希望者が多い(教頭)。 ・香港の学校との交流について、香港で現在起こっていることも生徒は知っていると思う。現在起こっている情勢について、もし交流の中で出てきた場合はどうするのか？(質疑 学識経験者) → 相手校の担当者と十分に打ち合わせて対応していきたい。また、web交流に教職員もつく。質問等で簡単に答えられないものがあれば、教職員が対応。(校長、担当首席) ・学校カウンセラーの役割が大変大きいと思うが、現在どのくらいの時間来てもらっているのか？(質疑 教育従事者) → 月に5時間(保健・教頭) ・ひと月5時間では、人数が多くなると難しくなるのでは？(質疑 学識経験者) → 確かに厳しい。現在は相談内容によって、短時間相談と長時間相談をうまくバランスさせている。(保健・教頭) <p>第3回【令和3年2月24日(水)】 文書にて開催。運営協議員6名全員が、「令和2年度学校経営計画及び学校評価」ならびに、「令和3年度学校経営計画及び学校評価」について承認した。</p> <p>(協議員の意見・感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に翔南祭、体育祭、学習発表会はじめ本校の特色あるりん翔SORAプロジェクト等の工夫した実施など、厳しい中でもできる形で行事をしていただき、ありがとうございます。(保護者代表) ・各家庭のメール登録や教職員のリモート研修など、時宜を得たもの(複数意見)。 ・このコロナ禍、また教職員の業務が増加している中で、皆様が創意工夫されたり、臨機応変に対応して「生徒を主役」に多岐にわたり努力していることが分かった。今後、時代に合わせたルールや内規の変更など、スピード感をもって学校経営に当たってほしい。 ・ICTの得意な先生が不得意な先生方に助言するのは、価値があり学校力を向上させる。(学識経験、教育関係者) ・厳しいコロナ禍の下、学校一体となった取組みの工夫、チャレンジに対して敬意を表したいと思います。本当にありがとうございます。先生方や職員の皆様のご努力はもとより、生徒たちの頑張りもたたえたいと思います(地域住民)。 ・アクティブラーニングへの志向は評価できるが、具体的な手立てがやや不明瞭。具体例をご紹介いただくとありがたい。学校行事やボランティア、国際理解等、困難な状況下で最善を尽くされたと思う。いろいろあったが、次年度に期待したい(学識経験者)。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
一 地域に根差した高校として、未知の状況に対応できる、確かな学力の育成	(1)新学習指導要領を見据えた(主体的・対話的・深い学び)の視点からの授業改善	(1) <ul style="list-style-type: none"> ア) 授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック イ) アクティブラーニング等の授業方法の研究実践。 ウ) 授業改善や進路指導のため ICT 機器の利用拡大。【ICT 機器(電子黒板)の設置】 エ) 進路指導部による基礎学力の定期的な測定【教育産業による学力分析システムの活用】 オ) キャリアパスポートの充実。 カ) 高大接続改革(大学入試制度の変更:多面的評価の導入)へ対応した、活動記録シート(ポートフォリオ)の充実。 キ) 進路実現に向けた外部模試の有効活用 ク) 定期考査前補習や進学希望者補習の実施と、教育産業との連携による特講(進学補習)や夏期自主勉強週間の充実。 ケ) 大学、短大、専門学校との連携推進。 コ) 国公立大学や難関大学合格実績の継続。 サ) それぞれの進路実現のサポート。(一つ上の進路目標を意識) 	(1) <ul style="list-style-type: none"> ア・イ) 授業アンケートの結果平均を昨年度並みとする。(R1:3.18) ア・イ) 学校教育自己診断における授業満足度を上昇させる。(R1:65.7%) ウ) 全 HR 教室に電子黒板の設置を完了させる。目標6台とする。(R1:6台) エ) 英検受験者数を増加させる。(R1:32人) オ・カ) 在校生全員分のキャリアパスポートおよび活動記録シートの作成促進 キ) 外部模試受験者数を昨年並みとする。(R1:31人) ク) 夏期自主勉強会参加生徒数を昨年並みとする。(R1:累計206人) ケ) 大学・短大・専門学校等の出前授業の昨年度並みの活用 コ) 国公立大学や公務員合格を絶やさない。(R1:2人) サ) 進路未決定者(進学浪人を含まず)を3%以下に抑える。(R1:0.5%) 	(1) <ul style="list-style-type: none"> ア・イ) 授業アンケートの結果は(3.21)と昨年より上昇した。H30年度(3.22)R1年度(3.18)と、ここ数年安定した結果を維持している。教職員研修の充実、ICTの有効活用、目標設定面談時や相互授業見学、代表教諭による模擬授業などにおける授業力の向上に対する意識付け、振り返りシート、生徒との信頼関係の構築などが主な要因と捉える。今後もICTをより有効に活用するとともに、一斉学習、個別学習、協働学習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向かいたい。学校教育自己診断における授業満足度は59.2%と昨年度より下降した。実施時期がR3年1月中旬でありコロナ禍における生徒のストレスによる要因が少なくないと分析している。今後更に改善を施し数値の上昇に向かいたい。(○) ウ) 全 HR 教室への電子黒板の設置を完了。生徒の学習意欲や教職員の授業力向上の要因の一つと捉えている。ICT担当を軸に教職員の活用能力の向上に努めたい。(○) エ) 今年度は8名と減少した。コロナ禍であり校内での受験ができなかったことが減少の原因と捉える。グローバル人材育成や受験対応として今後ますます奨励したい。(△) オ・カ) 今後、活動記録シートやキャリアパスポートをより充実させ新学習指導要領(新たな観点別学習評価)に対応する。(○) キ・ク) 夏季自主勉強会は、コロナ禍の影響により、7/23～8/31の間、3年生のみの実施となった。参加者数は延べ168名、外部模試受験者数12名と、ともに減少した。ただし、厳しい状況の中、実施、チャレンジできたことを一定の成果と捉えている。今後も外部模試受験を奨励するとともに、夏季自主勉強会を充実させ潜在的な力をエンパワし、進路実現に向かいたい。(○) ケ) 大阪健康ほいく専門学校の出前授業を実施国際東洋医療学園はコロナ禍であるので未実施であった。(○) コ) 今年度は合格者0名であったが、次年度には目標を達成したい。(△) サ) 0%と目標を達成、全ての生徒の進路実現が図れた。今後も厳しい状況が継続するが粘り強くサポートしたい。(○)
	(2)特色ある教育活動の充実	(2) <ul style="list-style-type: none"> ア) グローバル人材育成のため、国際理解教育委員会による交流行事の充実と活性化。 イ) 地域の日本語教室やNPO等と協力して、多文化理解の取組を進める。 ウ) 国際的共通語として中心的な役割を果たす英語力をバランスよく育成するため、英語で話す機会の確保。【国際交流代表団の派遣継続】 エ) 指定校推薦やAO入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大。 オ) ハートフルほいく専門コースの充実。 	(2) <ul style="list-style-type: none"> ア・ウ) 国際交流代表団の派遣継続(R1:台湾6名) イ) 地域の多文化理解の取組みへの参加 エ) 公募制推薦入試等合格者数を昨年並みとする。(R1:19人) オ) ハートフルほいく専門コースの選択者について、進路に特化せず、親学習の観点をに入れて希望者を増やす。 	(2) <ul style="list-style-type: none"> ア・ウ) コロナ禍であるので代表団の派遣は中止し、昨年度訪問校にはビデオレターを送付。又11/17(火)は香港にある【インターナショナル・カレッジ・香港】とWeb交流を実施した。グローバル人材育成のため、りん翔SORAプロジェクトを継続させたい。(◎) イ) 1/14に3年生を対象に、OFIXとの連携で、中国、韓国、エジプト、スリランカ、アルゼンチン、タジキスタン国籍の講師を招き講演会を予定していたが緊急事態宣言見込みを受け急遽中止とした。加えて、ボランティア部を軸に地域の日本語教室との連携を計画していたが同じく実施を断念し。今後、多文化理解のため発展的に継続させたい。(一) エ) 公募推薦合格者数は12名と昨年度より減少した。今後チャレンジ精神を育み数値を上昇させたい。(△) オ) 予備調査では、42名であったが、コース説明会や懇談会後に27名に減少した。今後、専門コースの魅力をこれまでも増して、アピールしその充実に努めたい。(△)
	(3)教育活動とその成果を地域に発信	(3) <ul style="list-style-type: none"> ア) 授業公開の充実。 イ) 学校行事への地域住民の参画、連携の拡大 ウ) ウェブサイト並びに教育活動通信等の充実 エ) 地域イベントへの積極的な参画。 オ) 一斉配信メールによる情報発信。 カ) 学校紹介。 	(3) <ul style="list-style-type: none"> ア) 外部への授業公開を例年並みとする。(R1:3回) イ) 体育祭、翔南祭への地域住民の参画を奨励する(R1:地域敬老会は事情により不参加) ウ・オ) メール一斉配信登録者数を増加させる。(R1:841名) 	(3) <ul style="list-style-type: none"> ア) 授業公開は例年並みに3回実施できた。保護者の参画15名、中学校教員1名、合計16名であった。開かれた学校をさらに推進し、参加者数を増加させるよう努めたい。(○) イ) 翔南祭、体育祭は感染拡大防止のため、入場を制限(保護者と学齢以前の弟妹のみ)し実施した。翔南祭(35名)・体育祭(46名)の保護者の参画をいただいた。コロナ禍であるからこそ多くの学びがあり、チーム翔南の絆も深まった。生徒達の多くの笑顔と共に学校力が確認でき大変有意義な時間であった。(○) ウ・オ) メール一斉配信登録は1,251件となり、電話連絡の必要な生徒は1名のみとなった。適時アナウンスし登録者数を増加させた。緊急時の連絡や安全確認には大変有効である。(◎)

府立りんくう翔南高等学校

	(4) インクルーシブ教育システムの推進(共に生きる教育の推進)	(4) ア) 専門家との連携 イ) 研修及び研修報告の充実 ウ) 支援学校との交流及び共同学習の推進	エ) 地域連携活動を充実させる。(R1:37回) カ) 学校説明会申し込み中学生数を増加させる。(R1:356人) カ) 中学校、近隣私塾へのアプローチ回数を昨年並みとする。(R1:延85+校長独自29校 私塾訪問22校) (4) ア・イ) 研修及び研修報告会を開催する。 ウ) 支援学校との交流を推進、発展させる。(R1:翔南祭での作品展示)	エ) コロナ禍であるため、地域連携活動は(23回)と昨年度より減少した。「できない」ではなくて「どうすればできるか」を基本方針とし、広域生徒指導などを実施した。特に泉南市第6回秋の文化祭への吹奏楽部・軽音楽部・ダンス部の参画は時の流れにマッチし大変意義深く捉えている。(○) カ) 地区の校長会と地域のTV局が連携し学校案内を放映した。又、学校独自の説明会は「できない」ではなくて「どうすればできるか」を基本方針とし例年並みに3回実施した。参加者数(289人)と申し込みは若干減少しているが、開催できたことは大変意義深く捉えている。(○) カ) 生徒獲得に向け、教職員による中学校訪問(延べ80校)塾には26校に資料を送付した。校長独自の中学校訪問は11校の訪問であった。コロナ禍であるが、「できない」ではなくて「どうすればできるか」を基本方針とし実施した。(○) (4) ア・イ) LGBT、障がい者理解など、当事者を招き教職員研修や学年ごとに講演会を開催した。少数ではあるが保護者の参加もいただいた。教職員研修での教職員の振り返りや講演会後の生徒の感想はいずれも肯定的評価が高く、共生社会の実現に繋がる結果であった。(○) ウ) コロナ禍であるため、すながわ高等支援学校と相談の結果。作品展への参加は不可とした。(一)
二 思いやりの心と健康体力の醸成	(1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」を理解できる教育活動を進める。 (2) 健康体力を意識した取組	(1) ア) 志学、道徳教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動の充実 イ) 生命の尊さなどを問う人権教育の充実 ウ) 全教育活動を通して、生徒の人間関係の変化等を見逃さず、機を逸することなく修学支援委員会・指針に沿ったいじめ防止対策委員会等を開催し、チームとして対人関係に起因するトラブル等の未然防止及びその対応・解決に向かう。 エ) 対人関係に起因するトラブル(いじめの可能性の疑いがある事象)については期を逸することなく指針に沿い組織として対応する。 (2) ア) 健康月間の設置 校内に設置された歯磨きスペースを活用し、歯磨き月間などを充実させる。 イ) トレーニング設備を充実させる。	(1) ア) 学校教育自己診断による生徒の学校満足度(「自分のクラスは楽しい」の肯定意見)を昨年度より上昇させる。(R1:81.7%) イ) 人権テーマ(同和問題、障がい理解などで当事者からの話を聞く等)を扱ったホームルームや職員人権研修を例年なみに実施する。(H31年:生徒10回・教職員4回) ウ・エ) 事象発生後、速やかに会議を開催し、素早い組織対応を行う。 (2) ア) 今年度は6月と11月の2回、歯の健康月間として実施する。 イ) 体力を強化して、部活動の活性化につなげる。	(1) ア) 子ども達を取り巻く厳しい社会情勢の中、学校の使命が問われる数値と捉えている。本年度は73.3%と下降した、コロナ禍の影響も少なくないと分析する。今後、様々な改善方を施し数値の上昇に向かいたい。(△) イ) 生徒・保護者対象(7)回 生徒対象(1)回 教職員対象(5)回、と昨年並みに開催した。特に、LGBT当事者による教職員研修では振り返りで4.48/5、大学教授より同和問題についての振り返りで4.25/5の満足度を示すなど前向きに学ぶ機会となった。また、生徒対象の当事者による障がい理解やLGBT理解に関する講演においても、事後の感想より「共感できた・親近感がわいた」など多くの前向きな思いが確認できた。今後もより充実させ生徒、教職員の人権感覚を高めたい。(○) ウ・エ) 人間関係のトラブルに関しては機を逸することなく【いじめ防止対策委員会】を開催し(5回)組織対応に努めた。(○) (2) ア) 歯の健康月間などは設置できなかったが、歯科検診についての生徒への勧告書をすべての生徒にコメントを添えて通知するなどの工夫で歯の健康維持についての意識を喚起した。今後も生涯に通ずる健康観を意識させるため様々な取り組みを実施したい。(○) イ) パワーリフティング同好会の設立とともに、トレーニング設備の充実を図った。第1・第2ルームとも使用頻度が上昇している様子である。(○)
三 心安らげる安全で安心な学校づくり	(1) 社会構成員としての自覚を高める。	(1) ア) 全校一斉指導(服装・頭髪・身だしなみ指導)を充実させ規範意識を高める。 イ) 広域生徒指導を定着させる。 ウ) 式典(始業式・終業式)での校歌斉唱及び正装の徹底を図り儀式的行事感を身に付ける。	(1) ア) 停学を伴う特別指導案件数を昨年度なみとする。(R1:18件、26名) ア) 全学年総年間遅刻件数を生徒一人当たり昨年度並とする。(R1:7.7回/人・年) イ) 広域生徒指導を昨年度並みに実施する。(R1:2回) ウ) 式典時、自主的に整列ができるようにする。	(1) ア) 特別指導案件は22件、30名で概ね昨年並みであった。数値がすべてではないが、規範意識の定着度を客観的に見る参考数値として捉えている。今後もカウンセリングマインドをもって数値の減少に向かいたい。(○) ア) 遅刻、生徒一人あたり平均8.01回、退室等も含む、生徒一人あたり11.8回であった。遅刻数は減少傾向にある。この数値は規範意識と共に学校力が問われる数値と捉えている。今後も学校関係者が連携協力し、数値の減少に向かいたい。(△) イ) 生徒・保護者・地域警察署・教職員が連携協力しコロナ禍に対応した企画で実施した。9/19、生徒・保護者・教職員 9/24、教職員・地域警察署との連携で実施した。地域と共に育つ学校として意義深い取り組みである。今後ますます発展させたい。3学期も2/17・26に予定していたが感染拡大防止の観点から中止とした。(○) ウ) コロナ禍であり全校集会は未実施であった。外部から講師を招き講演会の開催や臨時にての学年単位での集合状況は極めて良好であった。(○)

府立りんくう翔南高等学校

<p>(2)「美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する」</p>	<p>(2)</p> <p>ア) 事務室等との連携による施設、設備のより適正な維持管理に努める。</p> <p>イ) 事務室等との連携により防災計画をより充実させるなど、防災意識の向上を図る。</p> <p>ウ) 地域の防災訓練に学校施設を貸し出すなど、地域ぐるみによる防災意識の向上を図る</p> <p>エ) メール、情報発信ツール活用の充実を図るとともに登録者数の増加を図り、教育情報の効果的な発信とともに災害時における迅速な安否確認に努める。</p> <p>オ) 食物アレルギー対応委員会の設置、並びに教職員間において「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」の周知を徹底するなどし、事故の未然防止に努める。</p> <p>カ) 学校内外における美化活動及び清掃活動の充実</p> <p>キ) 生徒保健委員会の活性化による生徒の健康意識の増進</p> <p>ク) 喫煙防止、性感染症防止、薬物乱用防止教育の更なる推進</p> <p>ケ) 憩いの場として、中庭（噴水）スペースの整備</p>	<p>(2)</p> <p>ア・イ) 背の高い什器類に耐震金具を設置し、令和2年度で什器類の耐震化を完了させる。</p> <p>ア・イ) 防草シートを600平米設置し、財務マネジメントの効率化、景観美化、防災対策を図る</p> <p>ア) 正門に転倒防止金具を設置する。</p> <p>ウ) 保育園との連携を開きたかった。</p> <p>エ) 登録数を増加させメール、情報発信ツール活用の充実を図る。 (R1:712名登録)</p> <p>オ) 食物アレルギーに係る研修会を実施する。</p> <p>カ) グランド周辺に200本の植樹を行う。</p> <p>カ) 有志生徒による一斉通学路清掃参加者を前年比15%増にする。 (R1:13.5%)</p> <p>キ) 学習発表会等、生徒保健委員会の発表の質の向上を図る。</p> <p>ク) 喫煙防止教室、性感染症防止講演、薬物乱用防止教室等を引き続き実施し肯定率を維持する。 (R1肯定率:喫煙防止教室95%、性感染症防止講演98%、薬物乱用防止教室98%)</p>	<p>(2)</p> <p>ア・イ) 計器類の耐震化、正門への転倒防止器具設置、及び防草シートの設置等、防災対策に取り組んだ。 (○)</p> <p>ウ) 11/6、泉南市の保育園のみなさんが津波時の一次避難所となっている本校を訪れ避難訓練を実施、今後も連携協力を深め地域ぐるみで防災意識の向上に努めたい。 (○)</p> <p>エ) 情報発信ツールへの登録がねばり強いアナウンスにより1251名と大幅に増加した。教育情報の発信とともに非常災害時等においても大変効果的である。今後ますます活用の充実を図りたい。 (◎)</p> <p>オ) 8/25に本校学校医を招き、食物アレルギーに係る教職員研修会を開催した。振り返りのアンケートでは教職員の満足度が4.45/5であった。食物アレルギーに対する教職員の意識の向上も伺え、概ね充実した研修会と捉えている。 (○)</p> <p>カ) グラウンド周辺に植樹が完了した。またコロナ禍に対応した通学路清掃を9/19に実施した。参加者は40名と制限を加えた。2学期にも予定していたが感染拡大防止の観点から中止とした。様々な取り組みは美化意識やボランティア精神を醸成し、心地よい教育環境の整備や地域連携の強化へと繋がり、意義深く捉えている。 (○)</p> <p>キ) 学習発表会はコロナ禍に対応し学年別に実施し、探求的な学びの発表を加えた内容とした(1・3年—1/14、2年—12/24)。新しい時代に求められる探求的な力が育まれ大変意義深く捉えている。 (◎)</p> <p>ク) 喫煙防止教室(98.0%)、性感染症防止講演(97.0%)、薬物乱用防止教室(97.0%)と高い肯定率を維持している。今後も講師の精選や日程調整を綿密に実施し肯定率を維持したい。 (○)</p> <p>ケ) 生徒達の憩いの場である中庭（噴水スペース）の清掃を6回実施。生徒達の昼食場や未来を語りあう意義深いスペースである。今後も予算を調整し整備に努めたい。 (○)</p>
<p>(3)「部活動、ボランティア活動、生徒会活動などの特別活動の充実」</p>	<p>(3)</p> <p>ア) クラブ活性化担当の配置、地域や外部人材との連携による部活動及びボランティア活動の充実</p> <p>イ) 地域中学校との交流の推進</p> <p>ウ) 生徒主体の体育祭、翔南祭、学習発表会など教育活動の充実</p>	<p>(3)</p> <p>ア) 部活動加入率を増加させる。(R1:33.8%)</p> <p>ア) ボランティア部や生徒会が主体となり、体験活動ボランティア活動について、昨年度並みの実績を図る。(R1:11回)</p> <p>イ) 部活動について、中学校との連携回数を増やす。(R1:交流4回)</p> <p>ウ) 保護者・地域住民の行事参加率の向上と、学校行事の事後アンケートでの肯定的意見を増やす。</p>	<p>(3)</p> <p>ア・イ) 部活動活性化担当を配置し、広報チラシの作製、配布(42校)。昨年度設置したりんくう翔南杯バレーボールの部はコロナ禍であるため中止としたが本年度新たに設置したクラブ交流会の企画は緊急事態宣言を受け3/6に延期し実施予定である。今後も働き方改革を意識しながら部活動の活性化を図っている。コロナ禍であるが対策を施し、中学校との交流は(5回)実施できた。加入率(30.0%)の上昇には反映できていないが今後の成果に期待したい。体験活動やボランティア活動への参画回数もコロナ禍であるため減少したが、2名が2回、地域のNPO法人と連携し学習支援に力を発揮した。今後も発展的に継続させ社会貢献や思いやりの心を育みたい。 (○)</p> <p>ウ) 体育祭・翔南祭・学習発表会などすべての学校行事を中止することなくコロナ禍に対応した企画で実施でき、強い学校力が確認できた。制限を加えているため参加率は減少したが、多くの学びがあり生徒達の成長に繋がったと捉える。今後ますます学校行事の活性化に向かいたい。 (◎)</p>
<p>(4)「組織の充実と活性化」</p>	<p>(4)</p> <p>ア) SP会議(将来構想委員会)、食物アレルギー対応委員会、国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、クラブ活性化チーム、フレッシュパーソンチューター会議、定例学年団会議・学年主任連絡会等の更なる充実。</p> <p>イ) 学習指導要領の改訂に対応した、内規等の見直し及び観点別学習状況の評価方法の検証。</p>	<p>(4)</p> <p>ア) 食物アレルギー対応委員会を学期に1回開催する。</p> <p>ア) 学年団会議及び学年主任連絡会の開催回数を昨年並みとする。 (R1学年団会議:35回 主任連絡会:12回)</p> <p>イ) 観点別学習評価を導入する。</p>	<p>(4)</p> <p>ア) 食物アレルギー対応委員会は教職員研修会8/25、資料開催12/14、情報共有2/22の3回開催し、学期に1回開催することができた。 (○)</p> <p>ア) コロナ禍といった状況を踏まえ、学年団会議(26回)学年主任会議(12回)・コロナ対応等(20回)等、様々な課題には組織対応を軸に対応した。 (○)</p> <p>イ) 令和3年度の施行に向け、教育課程検討委員会にて計画的に対応した。 (○)</p>

府立りんくう翔南高等学校

<p>四 人 材 の 育 成 と 管 理</p>	<p>(1)人材の育成と管理</p>	<p>(1) ア) ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を実施し教職員の資質の向上に向かう。 イ) 働き方改革推進のため週1回の定時退庁日(水曜日)に加え、月1回の定時退庁日(スーパープレミアムフライデー:最終週の金曜日)を設置する。同時に、月間超過勤務対象者にはその都度理由書の提出を求め、解決を図る。</p>	<p>(1) ア) ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を年間10回程度実施する。(R1:16回)校長推薦や人権研修を含む。 イ) 月間超過勤務80時間以上の年間延べ人数延べ回数を減少させる。 (R1:5名、9回)</p>	<p>(1) ア) 初任者・リーダー養成研修などへの参加者による研修報告会を開催(4回)、ICT担当によるリモート授業研修会の開催(3回)、大学や関係機関より講師を招いた教職員研修の開催(15回)や日常的な教職員への寄り添いにより、意識改革や資質向上に努めた。授業アンケート結果にその成果が反映したと捉える。 (○) イ) 理由書の提出や日常的なアナウンスにより、年間の産業医による面接対象数が2名2件と減少した。今後も本府の指針にそった働き方改革を推進したい。 (○)</p>
--	--------------------	--	---	---